

東京まゆみ会会報

第36号 (令和6年8月)



まゆみの精神

強靭であれ その木の如く
しなやかであれ その枝の如く
清楚であれ その花の如く
誠実であれ その朱き実の如く



東京まゆみ会

目 次

あいさつ

絆は世代を超えて

語り継ぎ、言い継ぎ行かん安達のまゆみを

ご挨拶

寄稿

百周年記念懇親会に参加して
沢山話し、良く笑う人生を！特別寄稿 安達高校百周年記念誌を編集して
平均寿命が全国で最も長い川崎市麻生区での私のお仕事
博士というキャリアについて

(高校・大学(院)・教員・研究者)

特集 師弟同行

写真で見る総会・懇親会2023

東京まゆみ会のホームページができました
東京まゆみ会が福島民報で紹介されました

東京まゆみ会事務局より

東京まゆみ会則
令和五年度年会費納入者ご氏名
現在の役員体制
会からのお願い
編集後記

【表紙の写真】2023東京まゆみ会総会・懇親会

東京まゆみ会	会長	佐藤富美夫
安達高等学校同窓会	会長	五輪美智子
安達高等学校	校長	伊藤勝宏

東京まゆみ会	副会長	阿部伊勢吉(昭45)
安達高等学校同窓会	副会長	山田由美子(昭51)
会員	副会長	鹿又いづみ(昭56)
会員	副会長	森淳子(昭60)

会員	武田晃司(平17)	佐藤富美夫
会員	菅野育夫(昭51)	五輪美智子
会員	武田晃司(平17)	伊藤勝宏

東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局
東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局
東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局	東京まゆみ会事務局

22	22	22	21	20	18	16	14	12	10	8	6	5	5	4	3	2
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---

「絆は世代を超えて」



東京まゆみ会会長

佐藤 富美夫（昭和45年卒）

私は令和5年度総会において、高橋会長のあとを受けて会長に就任いたしました。

高橋会長には4年間にわたり会長を努めていただき誠にありがとうございました。

コロナ禍という非常に舵取りの難しい時期で、移動すること、集うことが大きく制限されたなか、会報の発行を続けられたことは大変素晴らしいことだと思います。また、会員の皆様には会報への執筆や近況報告など、ご協力をいただき御礼申し上げます。

昨年10月、安達高等学校創立100周年を祝う記念式典が開催されました。

10月14日には、東京まゆみ会総会・懇親会を4年ぶりに開催し、設立75周年記念の年でもあり、久しぶりの再会を祝い、アトラクションを交えて和やかに歓談しました。

これからも東京まゆみ会が盛会に続けていけるよう、皆さんと楽しい会にしてまいります。

私と東京まゆみ会の出会いは、2010年、同期の阿部伊勢吉君（現副会長）からの誘いでした。13年前になりますが、

幹事会の案内がきて幹事に就任したと記憶しております。このことが、高校の同窓会の何たるかを考えてみる良い機会になりました。

そして、この時から始まつた先輩、後輩、同期の同窓生の皆様とのお付き合いが、今も人生の一部になっています。

「絆は世代を超えて」つながっていくのです。

世の中の変化は想定をはるかに上回るスピードで動いています。スマートフォンの普及、SNSの登場・拡大により人と人とのコミュニケーションは新たな形、方法を生み出し、私たちはネット社会を無視して生活することは出来なくなってしまいました。

また、コロナパンデミックは人間の接触を大幅に制限したものの、人と人が対面で出会い、コミュニケーションをし、喜怒哀楽を分かち合うことの大切さを再認識する機会を与えてくれました。

人間同士は、絆やつながりの上に成り立つており、時には直接会うことで新たな発想・ひらめきも生まれてくるのではないでしょうか。

今年3月に「東京まゆみ会」ホームページを開設しました。

今後の同窓会活動には、SNSの活用がより重要になるとと考え、新たな一步を踏み出しました。ぜひ、ホームページをご覧になってください。懐かしいあの人、あなたに会えるかも。

今年の総会は、10月12日(土)に開催されます。

顔を合わせ旧交をあたため合い、絆を深めましょう。

会員の皆様、同期の皆様をお誘い合わせの上、ご出席くださいますようお願い申しあげます。

「語り継ぎ、言い継ぎ行かん安達のまゆみを」



福島県立安達高等学校同窓会会长

五輪 美智子

令和五年十月二十八日、二本松市市民会館にて、三年かけて準備した創立百周年記念式典が挙行されました。開始のベルに続々、静まつた会場に凱歌「安達野寂と夕こめて」が流れ、歌が終わるや縞帳が上がり、式典が始まりました。安達高校三年生の男女二人が総合司会をつとめ、生徒会副会長が開式の言葉を述べるや、会場からあたたかい大きな拍手がわき起り、あれほど緊張していた副会長の顔がほころび、席に戻るセーラー服が輝いて見えました。

令和六年三月一日、名残雪の中、百周年の歴史を刻んだ三年

生が、各々の進路目標を達成して卒業し、二度目の春を迎えた「百年桜」が満開で迎えた四月八日には、創立百一年の記念すべき入学式が挙行されました。伝統の制服に身をつつむ新入生が入場するや会場に割れんばかりの拍手がわき起りました。「新しい百年に向かって力の限り挑戦したい」との新入生代表の言葉と校歌「安達のまゆみ古しえの」が、身と心に染みわたりました。

同窓会は今年から従来の活動に戻りますが、より良い伝統の継続方法についてなど課題は山積みです。是非、東京まゆみ会の皆様のお知恵をお借し下さい。山部赤人の絶唱「語り継ぎ言ひ継ぎゆかむ富士の高嶺を」の如く、万葉の昔から歌に詠まれた「安達のまゆみ」を、一人でも多くの同窓生や地域の方々に語り継ぎ、言い継いで行きたいと思っております。

ことです」と堂々と述べた言葉に涙したのは、私一人では無かつたと確信しています。

式典終了後、スライドショーで「安達高校百年の歩み」を映像で楽しみ、福井トシ子氏（昭和五十一年卒）による「人生百年時代によりそう」の講演会を開催しました。講演後、生徒さんや会場から活発な質疑が相次ぎ、福井氏の説得力のある応答がある度、会場から歓声と拍手が起り、講師と聴衆という垣根を易々と越える「同窓の絆」の力の有り難さを感じました。式典当日は悪天候の予報で、学校から傘立てをお借りし、傘入れ袋を準備しましたが、有り難いことに、生徒さんや会場にお越しの皆々様の行き帰りには、安達太良山の空の下、明るい日ざしが差し込んでくれました。さらに夕方の祝賀会会場には、母校百寿を祝うかのように、見事な満月が空高く登り、感謝、感謝、感謝有るのみの一日でした。

令和六年三月一日、名残雪の中、百周年の歴史を刻んだ三年生が、各々の進路目標を達成して卒業し、二度目の春を迎えた「百年桜」が満開で迎えた四月八日には、創立百一年の記念すべき入学式が挙行されました。伝統の制服に身をつつむ新入生が入場するや会場に割れんばかりの拍手がわき起りました。「新しい百年に向かって力の限り挑戦したい」との新入生代表の言葉と校歌「安達のまゆみ古しえの」が、身と心に染みわたりました。

「ゞ」挨拶

福島県立安達高等学校 校長

伊藤 勝宏



私は安達高等学校校長、伊藤勝宏と申します。本年で三年目

となり、校長としても最後の年を迎えました。

昨年は、創立百周年の記念の年で、多くの記念事業が行われました。十月二八日には、厳かな雰囲気の中、福島県副知事の鈴木正晃様や、本校同窓生でもあります福島県議会副議長の佐藤政隆様など多数の来賓のご臨席のもと、二本松市民会館において創立百周年記念式典が挙行されました。大変に感動的な式典となりましたことをご報告させていただきます。これも皆様のお蔭によるものと改めて深く感謝を申し上げます。

さて、昨年の本稿におきまして、安達高校の次の百年に向けた新たなスクール・ポリシーを作成中である旨を述べましたが、完成いたしました。内容は以下のとおりです。

2 カリキュラム・ポリシー・努力目標 (高校では、このような教育活動を行います。)

- 基礎・基本の学習を尊重し、確かな学力を培います。
- 主体的・対話的で深い学びにつながる学習を展開します。
- E S Dの理念に基づく探究型学習を行い、情報活用能力や課題発見・解決能力の育成に取り組みます。

○多様な進路希望に対応した個に応じた指導を丁寧に行い、生徒が自らの将来を開拓する力を身につけさせます。

○国際理解教育と復興教育を軸としたE S D活動や、生徒が行う特別活動、部活動等の充実に努め、自己肯定感の醸成を図る取組を展開します。

3 アドミッショhn・ポリシー・志願してほしい生徒像 (高校では、このような生徒を求めています。)

福島県内の高等学校で最初のユネスコスクールである本校

1 グラデュエーション・ポリシー・教育目標

(卒業までに、このような生徒を育てます。)

- 自ら学び正しい判断力を持つ生徒を育てます。
- 誠実で忍耐強い生徒を育てます。
- 心身ともに健全でたくましい生徒を育てます。
- 地域社会とつながり、郷土に貢献できる生徒を育てます。

百周年記念懇親会に参加して

東京まゆみ会副会長 阿部 伊勢吉（昭和45年卒）



この度の安達高校創立百周年記念行事開催は、令和二年度から同窓会・PTA・学校関係者合同で記念事業実行員会組織を整えて準備されました。関係者のボランティア活動に総会に出席した同窓の一人として感謝を申し上げます。

私は安達高校を卒業して五十四年目にして百周年記念総会と懇親会に初めて参加しました。懇親会も各年次の先輩方、同年次、後輩方とは母校の思い出話と全員で合唱した凱歌などは、用意された美味しいお酒で大いに盛り上りました。

東京まゆみ会からは安斎隆先輩、安藤勇夫先輩、神野宗介先輩、佐藤富美夫さん、山田由美子さんと私が出席です。

懇親会に参加して気づいたことですが、まゆみの精神「強靭であれ、しなやかであれ」は各年次卒の同窓生の心の奥深くに根付いていたことに感銘を受けました。

さて、東京まゆみ会も一九四八年に設立されてあと四年後には八十年を迎えます。首都圏在中の同窓生は減少しつつある中で、東京まゆみ会の維持と増強に向けて安達高校創立百周年記念行事を参考に取り組まなければならないと感じております。

沢山話し、良く笑う人生を！

東京まゆみ会副会長 山田 由美子（昭和51年卒）



昨年十月二八日、二本松文化センターに入ると、会場では、達高生

全員が規律良く着座し始まりの時を待っていた。セーラー服と学ランがなんとも懐かしい・私にも周囲の大先輩方にもこんな時代は確實にあった。

生徒男女一人ずつの明瞭な司会進行のもと、五輪会長の素晴らしい挨拶や、新調された校旗のお披露目等も滞りなく終了。

そして、昭和五一年度ご卒業、長きに渡り「日本看護協会会长」を務められ、現在は「国際医療福祉大学大学院教授、副大学長」にご就任の、「福井トシ子先生」の特別講演『人生百年時代によりそう』を一時間拝聴した。四～五名の生徒達が将来の事等に関する質問をして、そろそろ終了という時に、私は「ハイ！」と手を挙げて、横にいた弟や隣席の同級生等のどよめきを聞きながら、マイクを手渡された。実行委員の方々の一方ならぬご労苦に対し、私は本部の常任幹事でありますから何もお役に立てなかつたし、卒業生からの質問もあつた方がより盛り上がるのでは、と勝手に思つての事だつた。「ご講演を興味深く拝聴致しました。私は福井先生と同い年ですが、先生は何か健康に良いことをなさつてますか？」とお聞きした。「沢山の方と話し良くて笑うことです。」と、にこやかに即答して下さった。

すると今度は、サービス精神旺盛な安斎隆東京まゆみ会顧問も「ハイ！」と来賓席から勢よく挙手されて「私は訛つてないつもりでも周囲からは訛つてると言われます。福井先生はいかがですか？」と。会場中ギョッとしていると「東京に住んで長いのに私もすぐに福島県出身と判られます。」凍りついた空気を一瞬にして春の陽だまりにしてしまわれたお人柄に、皆魅了された。

司会者の男子生徒の「僕もこれから沢山話し沢山笑う人生を送ります」という、センス溢れる締めの挨拶に、私は秘かに、にんまりしたのだった。

特別寄稿

「安達高校百周年記念誌を編集して」

安達高校同窓会副会長



鹿又 いづみ(昭和56年卒)

このたび東京まゆみ会様から会報原稿のご依頼をいただきまして、どう書こうかと迷い、百周年記念誌の原稿依頼では皆様に「早くお願ひ」と催促までしたことも忘れ、自分は締め切りに間に合うだろうかとハラハラしながら筆を進めております。

安達高校創立百周年記念誌の構想を話し合ったのはコロナ禍真っ只中の令和三年春のことでした。会報など数ページの印刷物の編集に関わったことはありましたが、「記念誌」とは一体なんぞや?と、わが校と他校のこれまでの記念誌を何冊も熟読、そして、副委員長の前田さんとネット検索までしたことでも思い出されます。つまり初体験でほとんどわからない状態のスタートでした。そんな様子がよほど心配だったのでしよう、前同窓会長の渡辺秀雄先生から、「大丈夫? うまくいってるの?」と優しい中にも真剣さを込めた口調で何度もお電話をいただきました。その頃の私は、自分にできるだろうかと不安に思う一方、原稿を集めて印刷屋さんに届ければいいのだろう、と気楽に構えていた面もあり、

のんきなお返事をしたのも今となつては恥ずかしくほろ苦い思い出です。

また、三年後の百周年まではまだ余裕があるとも思っていましたが、五輪美智子現同窓会長の、「百年を辿るには時間は足りないくらいだよ。今から取り掛かって丁寧な良いものを作りましょう」の言葉に背中を押され、まずは原稿を集める方法を考えるところから始めることにしました。相談の結果、当時連絡が取れたまゆみ会や先輩方の推薦に依拠することとし、必要なテーマや旧職員の方々への依頼は、伝手や名簿を頼りに足を運んだりお電話したりを繰り返しました。そうして集まつたおおよそ百の原稿とインタビューの文字起こしは、それぞれが母校や恩師、旧友への愛情にあふれ、記念誌を素晴らしいものとしてくださったことに心から感謝しております。

女学校と旧制中学時代、また多忙な現役世代などの原稿が手薄な年代は、旧制中学時代の校友会誌「鬼園」「眞弓」、高校になつてからは戦後復興の若々しい力が生んだ「達高新聞」「同窓会報まゆみ」「PTA会報白檀」「生徒会誌まゆみ」、分校や定時制の記念誌などからも多数アーカイブとして再掲載させていただきました。それらも記念誌に一層の歴史の深みを添えてくれました。また、個人所有のアルバムや文集などから大切なものとしてくださいました。

原稿収集と同時に全体の骨組みの相談も始めましたが、母校の百年を貫く歴史、校舎、三顧の松や前庭、教育方針、行事、部活

動、制服、校歌や凱歌等愛唱された音楽、定時制や分校の変遷、学校を支える地域等々切り口はたくさんあるのですが、それをどんな構成にすれば誰の目にも読みやすく喜んでもらえるのだろうか：そのことは最後まで試行錯誤した課題でもありました。その中で、五輪会長はじめ同窓会の先輩方の意見でもある「百年の連なり」を大切にしようという考えに委員一同共感し、それを具体化するひとつとして、これまでに巻末に資料的に扱った年表を内容も充実させて卷頭に置いたらどうかというアイディアは、全体を貫いた方針となりました。編集中盤に『安達百年』という記念誌の題名が決定してからそれは一層はつきりしたものになり、皆様からおほめ戴いた装丁のイメージにもつながりました。

現在の学校の校舎や生徒の活動に関する内容は、主に同窓生の先生方が編集に関わってくださることになり、特に生徒さんの書やイラストを多数使わせていただけたことは、記念誌に若々しい息吹を与え、母校の未来に希望を感じるものとなりました。

この光栄な執筆の機会をいただいたことで、記念誌編集という役割が私の人生に温かい恵みを与えてくれたことをあらためて感じることができました。感謝いたします。



平均寿命が全国で最も長い

川崎市麻生区での私のお仕事

森 淳子(旧姓菅野) (昭和60年卒)



このたび東京まゆみ会幹事を仰せつかりました森と申します。微力ながら何かお役に立てればとお引き受けいたしました。精一杯務めさせていただきますので、会員の皆様、何卒宜しくお願いいたします。

さて、私が住んでおります川崎市麻生区は、男女ともに平均寿命が全国で最も長い(男性 84歳、女性 89歳)と昨年厚生労働省より発表されました。(※「令和2年市区町村別生命表」より)

しかし、記事を読み進めていくと「7行政区の中で 65歳以上の割合が約 24%、75歳以上は約 13% と川崎市内で最も高齢者の割合が多い」とも書かれており、果たしてこれは素直に喜んで良いものだろうかと考えてしまいました。

私、看護の職についており、この川崎市麻生区に位置する病院の特に透析など腎不全分野に深く関わりを持つ職場でお仕事させていただいております。その職場では血液透析を受けていら

つしやる患者さんの治療が安全・安楽に遂行されるお手伝いや、ご自宅で腹膜透析をされている患者さんの治療がうまくいくようサポートすることが主な業務とさせていただいておりましたが、これから透析が必要となる慢性腎不全の患者さんに、今後の治療をどうしていきましょうかと言った「腎代替療法選択」の相談事をする機会があります。

この相談の中で、対象となる患者さんの生活背景や治療に対してのお気持ちなどの聞き取りをすると同時に、腎不全とは…透析とは:(時には腎移植とは…も)と言った情報提供を行い、その方が生きていかれる上で最善の治療を選択できるようお手伝いをさせていただくという内容のお仕事なのですが、その方々の中には90歳台で透析を導入される方も少なくあります。日本透析医学会による統計から、ここ20年において透析導入平均年齢が63歳台から71歳台に徐々に上がってきているのを目指し、当職場でもそれに違わない現状があり、高齢化の波が押し寄せている感は否めません。

治療選択する上でお話を伺つておりますと、ほとんどの方が「このまま(保存期腎不全)で透析はしたくない」とおっしゃいます。理由を伺うと、ここ数年保存期腎不全で過ごせているからこのまま導入しないでも過ごせるかも…とか、透析は末期腎不全における最終的治療とされており導入されたら生きている限りは継続せねばならない治療となるため、やはりどうしてもご自身の予後が想像されてしまうこと、血液透析での時間の制約や過

去に治療がうまくいかなかつた方からの体験談から、いまさらそんな辛い思いをしたくない…などなど、中には生かされるのが嫌だというお考えの方もいらっしゃいました。そのような方々に対し、透析を導入しないことで起こりうるリスクのお話、各治療の詳細やメリット・デメリットのお話、これらをご理解していただけるよう説明させていただき、透析に対して誤解されている部分の修正を行いつつ、ご自身が最善の人生を送れるような治療を選択していただき「透析を始めてよかつた」と感じていただけるよう、日々「腎代替療法選択」の場に臨んでおります。

医師から「透析が必要なので透析をしましよう」と患者さんの意思が尊重されず(多少語弊がありますが)治療決定された時代から、現在は患者さんも治療選択に関与して治療を決定していく時代となりました。なおかつ、治療がうまくいくだけでなく、患者さんの人生目標が達成できるようなケアを提供していく質の高い看護が求められている時代となりました。

この職に就いてから優に四半世紀は越えていますが、私が新人だったころには「お医者様のいう通り」がまかり通っていた時代だつたな…と良くも悪くも懐かしく思うこの頃です。

ちなみに、我が家には3人の娘がおります。親の背中を見てか見ないでか誰一人として看護師になる子はありませんでした。子どもたちも何か思うところがあつたのでしょうか…。

最後に…先日、唯一自分で稼いでいない三女から母の日のお

花のプレゼントをもらいました。稼いでいる子どもたちは…ま、何か思うところもあつたのでしょうか…。そのステキなお花の画像を添えて会員の皆々様の益々のご活躍をお祈りしつつ、拙い文章による現状報告を終わりたいと思います。

最後までお読みくださり誠にありがとうございました。



「博士というキャリアについて」

(高校・大学(院)・教員・研究者)



武田 晃司 (平成17年卒)

てしました。高校一年の一学期中間考查で真ん中あたりの成績をとつた私は、その後に職員室に呼ばれ、五輪先生から叱咤激励を受けたのでした。「おまえさん、どうするんだ?」いつも五輪先生が私に投げかけてくれる叱咤激励の言葉はコレだけでした。「こんな成績じゃダメだ。」とも言わず、「あーしなさい、こーしなさい」と言う指示も無く、その言葉の意味は「自分で現状を分析して、考えて、決断してきなさい」と言う意図だつたと思います。

「おまえさん、どうするんだ?」の質問に対し、私は「勉強します」と答えました。そう答えを聞いてからの五輪先生の対応は迅速で、各科目担当の先生に個別指導の了解を取り付けていただき、その上で、現代文から古典漢文までを五輪先生自ら指導をしていただきました。

個別の取り組みとは別に、学年の取り組みとして早朝と放課後にも受験対策用の課外授業を設けていただき、充実した支援を行なっていました。高校三年間は塾と予備校も並行して通いましたが、一番力がついたのは安達高校の先生方からのご指導・支援のおかげだと深く感謝しております。

【研究者になるには? - 回り道ばかりの学生時代 -】

医者になりたいと言つたものの、高校で色々なことを学んで

いく中で、“先天性の病気について研究してみたい、遺伝子について深く知りたい”と思うようになり、進学先を探しました。

しかし、高校生の自分にはどこに進学したら良いのかイマイチわかりませんでした。医学部や薬学部ではヒトの研究はできても病院実習や国試の勉強も大変そうだし、農学部や獣医学部では家畜の世話や農業実習もあるだろうし・・・などと悩んでい

東京まゆみ会員の皆様、福島県立安達高校関係者の皆様、第36号会報をお手にとつて読まれている皆様、後輩の方々、初めまして。東京まゆみ会の先輩からのご指名を受け、僭越ながら会報に寄稿させていただきます。また、若輩者ではあります

が、今後の東京まゆみ会を盛り上げるために貢献してまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。今回は、自己紹介をメインに書かせていただきました。

私は現在、茨城県つくば市にあります国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）にて、研究に従事しております。農研機構といつても馴染みがない方も多いかと思われますが、『シャインマスカット』や『ひかるシルク』などを開発した、農業に関わる研究・開発を行つて いる国立の研究機関です。

【安達高校と私の強力な受験対策】

私は、私が安達高校に入学したところから始まります。当時、特にこれといってやりたいこともなく、しかし高校入試の面接で、将来は医者になりたいと言つてしまつたために、入学後すぐ五輪先生（当時学年主任・現同窓会会长）に目をつけられ

ました。とりあえず色々な大学を受けまくつて全敗したので、浪人することにしました。浪人中に、学習院大学に『理学部では二〇〇九年四月に新学科「生命科学科」を開設し、分子細胞学を基盤として、DNA、RNA、タンパク質など、生体高分子の分子レベルでの教育・研究から、細胞の活動や動物・植物の個体発生などの生命現象を幅広くカバーした教育・研究を行う。』という話を聞き、これだ！と思い、まだ学科が出来ていなかつたので、化学科に進みました。その後、学部四年時に偶々、生命科学科の発生遺伝学研究室に入ることができました。化学科時代は生物学の授業はほとんど受けていないので、研究室配属後にゼロから生物学の勉強をスタートし、最終的には少し時間はかかりましたが博士（理学）を取得し、研究者のキャリアをスタートすることができました。

【紆余曲折～まだまだ続く博士のキャリア～】

私は、学部から教員（助教）までの期間を合わせると十六年間大学おりましたが、博士のキャリアは研究と教育だけではないはず、何か他のキャリアにも挑戦してみたいと考えて、新潟大学のURA（リサーチアドミニストレーター）に転職し、研究費獲得支援や世界大学ランキングの分析などを担当しました。その後、総務部企画課へ移り大学経営に関する情報分析や企画立案などに携わりました。さらに、博士になつたことで色んなご縁に恵まれ、農研機構に転職しました。我々のグループでは未利用昆虫の生物機能を活用するために、アメリカミズアブという昆虫の遺伝子の研究やゲノム編集技術を活用した研究を取り組んでいます。

【後輩達へ～「おまえさん、どうするんだ？」～】

これまでの経験全てが仕事をする上で活かされており、何事にもチャレンジしてみるものだと常々思われます。最近は、国家資格キャリアコンサルタントも取得し、ボランティアで大学生や大学院生の進学・キャリア相談を受けています（もちろん高校生も無料）。その時によくする話は、「あなたは、どうしたいの？」と聞くことや、そのためには「自分で現状を分析して、考えて、決断することが必要だよ」とアドバイスをするようになります。まるで誰かの指導方法をそのまま引き継いでいるかのようです。興味があればご連絡ください。

最後に、安達高校の後輩達へのメッセージですが、「あなたは、どうしたいですか？」ぜひやつてみたいことを自分で決めてみてください。しかし、何かを選択するにも、知識や経験が多い方が、あなたに合った選択肢を得られやすいと考えられます。なので、勉強も大事ということです。（↑ここが本当に大事）もし、迷つたり、困つたりした際には、先生方に相談するのもよし、まゆみ会の先輩方を頼るのもよしだと思います。関東に来た際には、東京まゆみ会でお会いしましょう。



なんでも
相談



連絡先

「師弟同行」

菅野 育夫(昭和51年卒)



昨年三月、四十年勤めた都内の私立高校を定年退職した。在職中の二十八年間剣道部の顧問をし、管理職になつても剣道部とはずっと関わってきた。

先日、うれしい報告が届いた。剣道部の教え子の一人が剣道七段に合格したというのである。多くの教え子の中で初めて七段に合格したのである。

現在の剣道の最高位は八段である。七段は全国で一万数千人いるが、八段は別格で全国で数百人しかいない。しがつて七段はアマチュアの最高峰といえる。しかし、簡単に昇段できるわけではない。定められた修行期間を経ないと次の段位を受審できないのである。二段の受審は初段合格後一年、三段は二段合格後二年経たないと受審できないのである。(別表を参照)八段にいたっては七段合格後十年経過しないと受審できない。七段に合格するには初段から最低でも二十一年かかるのである。高校生で三段をとつても七段までは最低十五年かかる。彼の場合一時剣道から離れていた時期もあり、高校卒業後三十年の月日が流れたのである。

私が竹刀を握ったのは十歳。自分から進んで始めたわけではなく、当時剣道六段だった父から有無を言わせせず

やらされた。しかも、近くに道場はなかつた。もっぱら稽古場は家の庭、父親が相手だつた。日が長い季節はいが、日暮れが早い時は裸電球ひとつ、冬の寒い日は雪のちらつくことさえあつた。屋根があつて、板張りの床で稽古ができるようになつたのは中学に入学してからだつた。中学校一年の時は父が顧問だつたが、二年の時に転勤したため二年以降指導者はいなかつた。それでも個人戦で何とか安達郡代表の二名に入り、県大会まで進みベスト十六で優勝者に敗れた。

安達高校時代も剣道部だつた。残念ながら安達高校にも剣道の指導者はいなかつた。それでも三学年上の先輩と二学年上の先輩は個人戦で全国大会に出場していたので練習レベルはそれなりだつたのだと思う。指導者はいなかつたが幸いにも二本松剣友会の先生方を知つていたので、今村元先生からお願いしてもらい定期的に指導に来ていただきことができた。我々の代も全国を目指し頑張つたものの、所詮指導者のいる学校には力及ばず一年二年と県北大会すら突破できなかつた。三年時、初めて県大会に出席できた。団体戦は予選リーグで敗退したが同期の野地が個人戦でベスト四まで進み、全国大会まであと一步だつた。指導者がいれば稽古は厳しくなつたであろうが、勝利の喜びも味わえたに違ひないと今更ながら残念に思う。私たちが卒業後は、剣道を専門に学んだ体育の教員が赴任するようになつて剣道部の成績はすこぶるあがつた。個人戦、団体戦でも全国大会に何度か出場している。

大学でも剣道を続けた。しかし、昭和五十五年(一九八

〇年)の春のある朝、左股関節に激痛が走り身動きすらできかない状況になった。受診すると「左股関節骨軟骨腫症」と告げられた。軽い気持ちで整形外科を受診したのだが手術が必要と、それもかなり大がかりな手術であるとのこと。三つの病院を回ったが結局どこの病院の結論も同じだった。万が一悪性の場合は左足切断とまで宣告された。手術直前の稽古ではもう剣道ができなくなるかもしれないと思うと涙が流れた。幸い良性だった。手術、リハビリと復帰まで約半年かかった。医者からは水泳以外の関節に体重のかかる運動は禁止といわれたが指示に背いてその後も剣道を続けてきた。

教員の道に進むきっかけは、大学での剣道の先生との出会いが大きかった。技術者になりたいと工学部を選んだのだが、ある先生の「菅野は教員が向いている。教員になれ。」の一言で進路は決まった。折角教職に就くなら、教科指導はもちろんだが、剣道部の顧問になりたかった。生徒には自分の高校時代のような指導者がいない寂しい思いをさせたくなかつたのである。

顧問時代は、試合で勝たせたいのはもちろんであつたが、卒業後どこで剣道をやつても恥ずかしくないものは身につけて送り出したかった。そんな思いで生徒と稽古してきた。自分が昇段しなければと思うようになつたのは、生徒を連れて外部に行つた時である。練習試合に行くと段位が上の教員が取り仕切ることが多かつた。生徒たちは何とも思つていなかつたかもしれないが、生徒に肩身の狭い思いをさせたくないと、本格的に段位取得に取り組んだ。それまで生徒との稽古中心だったが、生徒との

稽古を終えてから道場に通い昇段を目指した。それでもなかなか合格できず何年かかってようやく六段取得。その後七段に合格したのは四十三才のことである。

退職時には多くの卒業生が集まつて送別稽古会を開催してくれた。しかし、過去に手術した股関節も寿命だつた。痛みの影響で稽古どころか、歩くにも足を引きずる始末。思うような稽古はできなかつた。決心して今年、令和六年三月人生二度目の股関節の手術をした。

先日、教え子たちが昇段を目指しての稽古会をやりたいと言い出した。術後初めて面をつけた。まだまだ自由に動ける状態ではないが、卒業生や現役生とようやく稽古ができるまで回復できた。

これから先、卒業生の昇段を見届けたいし、自分自身もまだまだ八段にも挑戦してみたい。身体が動く限り教え子たちと竹刀を交えていきたいと思う今日この頃である。

卒業生に手ぬぐいの文字を書いてほしいと頼まれた。「師弟同行」の四文字を書こうと思っている。



段位審査規則	
初段	中学校2年生以上の者
二段	初段受有後1年以上
三段	二段受有後2年以上
四段	三段受有後3年以上
五段	四段受有後4年以上
六段	五段受有後5年以上
七段	六段受有後6年以上
八段	七段受有後10年以上 年齢46歳以上の者

《全日本剣道連盟段位審査規則》

写真で見る 総会・懇親会2023

2023. 10. 14 スクワール麹町



参加者全員で記念撮影



会長代行で挨拶する
阿部副会長



佐藤新会長



伊藤 安達高校長



同総会五輪会長

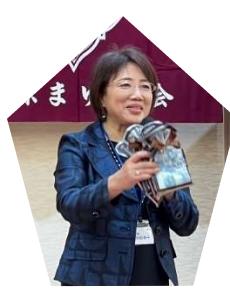


来賓の皆さんと



S 3 4卒の元気な先輩達

二人の名司会者



閉会の挨拶 平子副会長

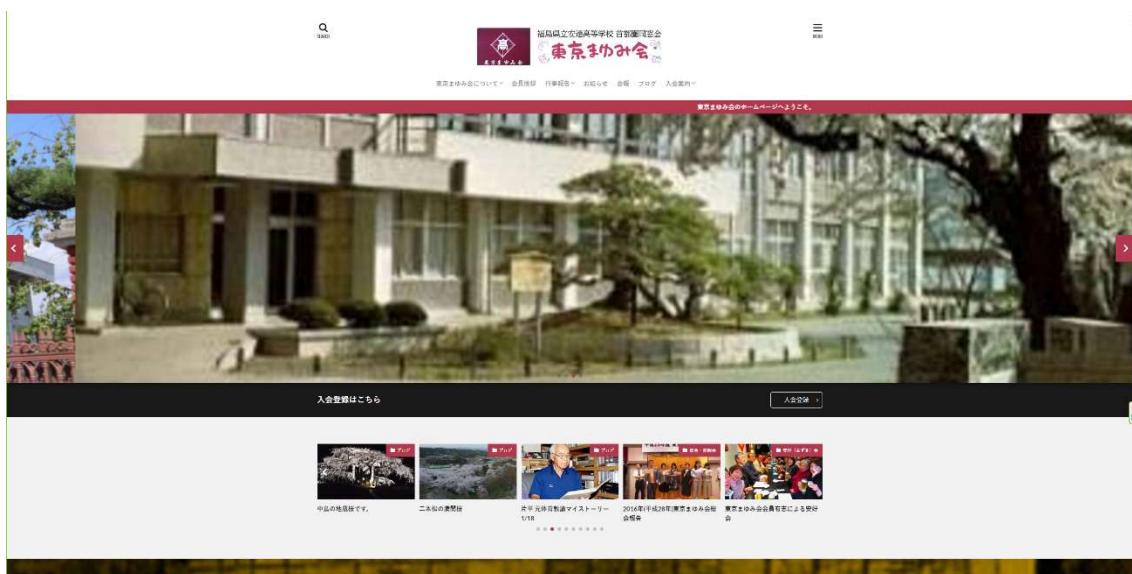
新役員を勧誘？

東京まゆみ会ホームページを公開しました！

二〇二四年三月十日に東京まゆみ会ホームページページを公開いたしました。公開にあたり、皆様からの多大なるご協力をいただきましたことを御礼申し上げます。

東京まゆみ会ホームページを作成するきっかけのひとつとして、当会の今ある最大の危機、会員数の減少がありました。ソーシャルネットワーク（エツクス（旧ツイッター）・フェイスブック・ライン）の公式ページも同時に立ち上げております。

スマホからも簡単に登録ですので皆様からの拡散を期待しております。



CATEGORY カテゴリごとの最新記事

- ブログ > 総会・懇親会 > お知らせ > 安好(あづき)会 >
- ◎ 2024/7/8 今 2024/7/1
片平 元体育教師マイスター
1/18
- ◎ 2023/7/26 今 2024/3/3
2016年(平成28年)東京まゆみ会総会
令和6年度 東京まゆみ会総会・懇親 東京まゆみ会会員による安好会
会のお知らせ
- ◎ 2024/4/22 今 2024/5/22
2016年(平成28年)東京まゆみ会総会
令和6年度 東京まゆみ会総会・懇親 東京まゆみ会会員による安好会
会のお知らせ
- ◎ 2024/2/24 今 2024/3/5
東京まゆみ会会員有志による安好会
報告

行事報告 >

- ◎ 2024/2/21 今 2024/3/5
東京まゆみ会会員有志による安好会
報告

東京まゆみ会事務局

TEL : 090-8726-3036
メール : tokyomayumi23@gmail.com

[東京まゆみ会会員登録へ](#)

プライバシーポリシー お問合せ リンク集

総会・懇親会

新着順 人気順 お勤めカテゴリ

◎ 2024/2/26 今 2024/3/5
2016年(平成28年)東京まゆみ会総会報告◎ 2024/2/26 今 2024/3/5
2015年(平成27年)東京まゆみ会総会報告◎ 2024/3/26 今 2024/3/5
2017年(平成29年)東京まゆみ会総会報告

東京まゆみ会事務局

TEL : 090-8726-3036
メール : tokyomayumi23@gmail.com

[東京まゆみ会会員登録へ](#)

[https://tokyomayumikai.com/ 会](https://tokyomayumikai.com/)

東京まゆみ会について 会員登録 行事報告 お知らせ 会報 プロダ 入会案内

東京まゆみ会のホームページへようこそ。

東京まゆみ会 会長挨拶

東京まゆみ会会長
佐藤富吉夫 45年卒業

皆さま こんにちは。
令和5年度総会において西原前会長のあとをうけ、会長に就任することとなりました。
東京まゆみ会は、昭和23年発足し、令和5年に創立75周年を迎えました。各界で活躍する人材を輩出してきた歴史と伝統ある東京まゆみ会の会員として、誠心誠意をもって努めさせていただきますのでよろしくお願い申しあげます。福島県立安達高等学校も、令和5年に創立100周年を迎え、盛大な記念式典が開催されました。
教育目標に掲げる「まゆみの精神」にある「謙虚、しなやか、清楚、純実」を受け継ぎ、これからも母校の発展に貢献してまいります。しかしながら、生徒数の減少により、同窓会を取り巻く環境は大きく影響を受けています。東京まゆみ会員も例外ではありません。このような状況のなか、今後の同窓会活動には、SNSの活用もより重要な役割になると思っております。社会の変化に対応しながら、皆様とともにいろいろと模索していくべきと思っております。
東京まゆみ会は、「会員相互の親睦と共栄を図り、併せて母校の延々発展に貢献すること」を目的としています。説を合わせ世交をあため合う、楽しい同窓会にしていきましょう。総会・懇親会では、最近の間違を含むお問い合わせ、ご出席くださいますようお願い致します。
皆さま、どうぞよろしくお願い申しあげます。

現在ホームページの更新は、月二回を最低目標として頑張っております。
ですが、なかなか新しい記事を見いだすことができず悩んでおります。
そこで皆様の近況等を募集しております。内容や文字数はといません。
ほんの数行でもかまいませんので、ご一報いただければ幸いです。(示
ームページ「掲載記事を募集中の詳しく述べ」と
さい。)

＊ホームページ
ワードは、「まゆみ会」または「

東京まゆみ会が 「福島民報」で紹介されました！

母校の創立100周年と会の
設立75周年を祝い、絆を強め
た東京まゆみ会の会員ら



安達高100周年 東京まゆみ会75周年

節目の年 絆強める

安達高（二本松市）の首都圏の同窓生でつくる東京まゆみ会は東京都千代田区のスクワール麹町で総会を開いた。母校の創立100周年と東京まゆみ会の設立75周年を迎えて、節目の年に改めて絆を強めた。

4年ぶり母校応援誓う

同会は1948（昭和23）年に発足し、現在は約300人の会員が所属する。コロナ禍を経て4年ぶりの集いで、約60人が出席した。高橋智章会長に代わり阿部伊勢吉会長代行がありさつし、五輪美智子安達高窓会長、伊藤勝宏安達高校長が祝辞を述べた。役員改選

で新任された佐藤富美夫会長が「これからもう、皆さんと楽しい会にしていきたい」とあいさつした。懇親会を開き、新会員紹介に続いて安斎隆顧問（東洋大理事長・セブン銀行特別顧問）の発声で乾杯した。近況を語り合い、アトラ

クションも交えて和やかに懇談した。1975年のインターハイ女子やり投げで全国制覇した山田由美子副会長の指揮で懐かしい校歌を歌い、母校の応援を誓い合った。

安達高の創立100周年記念式典は28日午後1時から二本松市民会館で行われる。

安達高 創立100周年

未来につなぐ まゆみの教え

■題字 東京まゆみ会顧問 安斎 隆さん

二本松市の安達高は今年、創立100周年を迎えた。1923(大正12)年に県立安達中学校として開校し、3万人を超える卒業生が巣立った。校章にかたどられた「まゆみ」のように、強くしなやかな「まゆみの精神」を受け継ぐ。28日の記念式典を前に、各界で活躍する卒業生と、勉学に励む在校生の姿を紹介する。(文中敬称略)

【安達のまゆみ古(いに)】 同窓生が集まつたのをきつしえの 歌によまれし跡遠
しー】
声を合わせて懐かしい校歌を歌う。14日、東京まゆみ会は設立75周年の総会を都内で開いた。同窓生ら約60人が4年ぶりに集い、交流した。

【安達のまゆみ古(いに)】 同窓生が集まつたのをきつしえの 歌によまれし跡遠
しー】
声を合わせて懐かしい校歌を歌う。14日、東京まゆみ会は設立75周年の総会を都内で開いた。同窓生ら約60人が4年ぶりに集い、交

▶1◀

まゆみ会



4年ぶりに集い、声を合わせて校歌を歌う東京まゆみ会の同窓生ら=14日、東京都千代田区

伝統の母校発展誓う

図を読むのが好きで、物事を俯瞰(ふかん)的に見るようになった」と懷かしむ。東北大法学部の在学中に司法試験に合格。卒業後は日銀に入行し、理事などを歴任して日本の金融の中核を担った。経営破綻(はたん)した日本長期信用銀行(長銀)の処理に当たった後、アイワイバンク銀行(現セブン銀行)社長に就いて新しい時代の金融機関像を示した。今は東洋大理事長、セブン銀行特別顧問として人材育成に力を注ぐ。「安達高はのびのび切磋琢磨(せっさたくま)で生きる環境だった。近くの古城山の『戒石銘』は、自分規範となつた」と振り返る。安斎の親友で同級生の安藤勇夫(83)=1959年卒=も東京まゆみ会の元会長。

まゆみ会は各地にあり、東京まゆみ会は戦後、復員の京県人会長=は「万葉集の二本松市上川崎の自宅から歩や渡し舟、バスで通学した。山岳部で安達太良山や磐梯山などに登った。一地

ている。総会で乾杯の発声を引く伝統の校歌を誇り安達高の同窓生でつくるをした元会長で顧問の安斎に思う」と胸を張る。安斎は高校時代、現在の安達高まで約6キロの道を徒歩で通学した。山岳部で安達太良山や磐梯山などに登った。一地

で現顧問。東北大法学部を卒業して日産自動車に入り、技術者として活躍した。米国アリゾナ州や北海道のテストコース開発を発案し、自動車の性能向上に尽力した。日本を支えた名車の歴史を伝えるアーカイブ活動に力を入れる。「次なる100周年に向け、特色ある学校として発展してほしい」と期待する。

今年、新たに東京まゆみ会の会長に就いた佐藤富美夫(71)=1970年卒=は駒沢大法学部を卒業後、情報システムの日本NCRに入社し、アイ・エス・エス社長などを歴任して情報化社会の進展とともに歩んだ。「安達高は友人や同期のつながりが強い。これからもまゆみ会が母校の発展に尽くしていく」と意欲を見せる。

東京まゆみ会会則

第1条

本会は、「東京まゆみ会」と称し、事務所を首都圏に置く。

第2条

本会の会員は東京を中心に広く在住する福島県立安達中学（旧制）、同安達高校（併設中学、本校および旭・針道・小浜・岩代・渋川・石井・大平の各分校定時制課程、夜間過程を含む）ならびに二本松実科高女、福島県立二本松高女、同安達女子高校の卒業者、同関係者で組織する。

第3条

本会は会員相互の親睦と共栄を図り、併せて母校の隆盛発展に寄与することを目的とし、そのために必要な諸般の事業を行う。

第4条

本会は次の役員を置く。任期は2年とし、再任を妨げない。

会長1名、副会長若干名、事務局長1名、会計1名、常任幹事10名以内、会計監査1名、幹事20名以内。

第5条

会長は本会を代表し、会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。事務局長は会の運営を円滑にするため、事務上における全般を遂行する。会計は本会の金銭出納、会計管理をする。常任幹事は会務を分掌、幹事とともに会の運営に当たる。会計監査は会計を監査する。

会長、副会長、事務局長、会計、会計監査、常任幹事（以上を常任役員と称する）は、総会において選任し、幹事は、常任役員会で選考のうえ会長が委嘱する。なお、補欠として選任された役員は、前任者の残任期

間とする。

幹事会が必要と認めた場合、諮問機関として顧問を置くことができる。

第7条

総会は年1回、臨時総会は必要に応じ会長が招集する。総会では常任役員（※幹事以外）の選任、会則の変更、会計の承認、会計監査の報告、その他重要事項を決議する。

第8条

総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところとする。

第10条

幹事会および常任役員会は、必要に応じて会長が招集し、総会に次ぐ重要事項や緊急事項を協議する。

第11条

本会の経費は、会費、寄付金などをもって充てる。

第12条

本会の会計年度は8月1日に始まり、翌年の7月31日に終わる。

本会の事務執行に関する細則は、幹事会で決定することができる。

（付則）この会則は、昭和48年4月1日より施行する。

（一部改正）

平成30年10月13日	平成27年8月30日	平成22年8月29日	平成16年8月3日	平成13年9月9日	平成8年9月15日
-------------	------------	------------	-----------	-----------	-----------

令和五年度年会費納入者、氏名

令和五年度年会

七

現在の役員体制

令和6年7月20日現在(卒年順)

【顧問】	安斎 隆(昭34)	安藤 勇夫(昭34)
【会長】	高橋 智章(昭41)	佐藤富美夫(昭45)
【副会長】	阿部伊勢吉(昭45)	山田由美子(昭51)
【事務局長】	菅野 育夫(昭51)	菅野 正造(昭48)
【会計】	大内 渡辺 弘次(昭45)	大内 渡辺 弘次(昭45)
【会計監査】	早川 ミツ(昭37)	百川 教彦(昭50)
【常任幹事】	宍戸 岩(昭60)	常住美智子(昭42)
【幹事】	山崎 淳子(昭60)	山崎 淳子(昭51)
	森 力(昭51)	菅野 孝三(昭50)
	喜古 康博(昭60)	喜古 康博(昭60)
	以上	

昭和
第5

○今年【会員からのお手紙】
 ○四〇四月十日の日、裏庭の“みかんの木”からアゲハチョウが三羽飛び、他から二羽飛んできて五羽飛んだ！うれしい！(今年は暖かな日が続いたから)羽化が早いのかもね！
 ○ココ二年前の事。庭に行つたら“うんち”的匂い。後日猫が来、私が居たので草の陰に居た水飲みに来るのは良いが“うんち”はしないでね！とお願いした。その後うんちはしなくなりました。お皿に水は小鳥のために置いています。(昭和37年卒の早川ミツさんより投稿)

安達高校は昨年百周年を迎えました。私たちが歩んできた歴史の上に、また新しい歴史が刻まれていくことでしょう。東京まゆみ会も昨年、四年ぶりに総会・懇親会が実施できました。あと四年で東京まゆみ会も八十周年を迎えます。若い卒業生を勧誘し益々活発な東京まゆみ会にしていきましょう。

『会報編集』 東京まゆみ会事務局 菅野育夫

東京まゆみ会会報 第36号

発行人 東京まゆみ会 会長 佐藤 富美夫

〒332-0016

埼玉県川口市幸町1-2-30-602

電話・FAX 048・256・1616

印刷所モリモト印刷株式会社

〒162-0813

東京都新宿区東五軒町3-19

電話 03・3268・6301(代)

会からのお願ひ

☆新会員ご紹介のお願い

本会は、入会の申し込みを常時受け付けております。

同期・先輩・後輩の方に入会を希望される方がいらっしゃいましたら、本会事務所宛て、もしくは、当会役員に、氏名、卒年、住所、電話番号をお知らせ頂きたく、宜しくお願ひ致します。

なお、新会員の方は、入会年度の年会費は免除と致します。

編集後記